

第2章：ダイナミカルシステムの表現

2.1 ダイナミカルシステム

キーワード：ダイナミカルシステム  
システムの線形化

学習目標：入出力を動的に関係づけるダイナミカルシステムとシステムの線形化の概念を理解する。

1

2 ダイナミカルシステムの表現

2.1 ダイナミカルシステム

ダイナミカルシステム(動的システム)

現在時刻の出力  $y(t_0)$  は入力  $u(t_0)$  のみでなく過去の履歴にも依存

静的システム

時刻  $t = t_0$  の出力  $y(t_0)$  は当該時刻の入力  $u(t_0)$  だけから一意に定まり、入力の過去の履歴  $\{u(t) : 0 \leq t < t_0\}$  に無関係

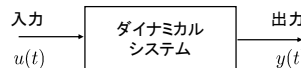


図 2.1 ダイナミカルシステム

2

[例 2.1] ばね系

- ばね定数  $K$  [N/m]
- (入力)力  $f(t)$  [N]
- (出力)ばねの伸び  $x(t)$  [m]
- フックの法則

$$x(t) = \frac{1}{K} f(t)$$

$$(f(t) = Kx(t))$$

静的システム

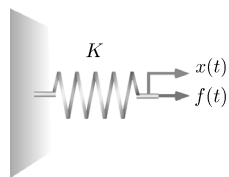


図 2.2 ばね系

3

[例 2.2] 質量-ばね-ダンパ系

- 質量  $M$  [kg]
- ばね定数  $K$  [N/m]
- (入力)力  $f(t)$  [N]
- (出力)変位  $x(t)$  [m]
- 粘性摩擦係数  $D$  [N · s/m]

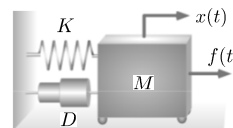


図 2.3 質量-ばね-ダンパ系

$$M \frac{d^2 x(t)}{dt^2} = f(t) - Kx(t) - D \frac{dx(t)}{dt}$$

$$M \frac{d^2 x(t)}{dt^2} + D \frac{dx(t)}{dt} + Kx(t) = f(t)$$

2階の微分方程式

ダイナミカルシステム

4

$$M \frac{d^2 x(t)}{dt^2} + D \frac{dx(t)}{dt} + Kx(t) = f(t)$$

微分方程式を解くと

$$x(t) = A_1 e^{A_2 t} + B_1 e^{B_2 t} + C_0$$

初期条件から

$$A_1, B_1$$

が求まる。

初期条件が、現在値  $x(t)$  に影響している。

5

[例 2.3] RLC 回路

$$e_o(t) = e_o(0) + \frac{1}{C} \int_0^t i(\tau) d\tau$$

$$\Rightarrow i(t) = C \frac{d(e_o(t) - e_o(0))}{dt}$$

$$\Rightarrow i(t) = C \frac{de_o(t)}{dt}$$

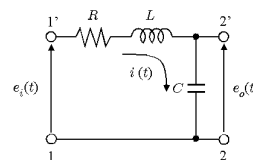


図 2.4 RLC回路

$$e_i(t) = Ri(t) + L \frac{di(t)}{dt} + e_o(t)$$

$$\Rightarrow e_i(t) = RC \frac{de_o}{dt} + LC \frac{d^2 e_o(t)}{dt^2} + e_o(t)$$

$$LC \frac{d^2 e_o(t)}{dt^2} + RC \frac{de_o}{dt} + e_o(t) = e_i(t)$$

2階の微分方程式

6



$$q_{i0} = q_{e0} = k\sqrt{h_0}$$

を用いて

$$A \frac{d}{dt} (h_0 + \delta h(t)) = (q_{i0} + \delta q_i(t)) - \left( k\sqrt{h_0} + \frac{k}{2\sqrt{h_0}} \delta h(t) \right)$$

$$A \frac{d}{dt} h_0 = 0 \quad q_{i0} = k\sqrt{h_0}$$

$$\Rightarrow A \frac{d}{dt} \delta h(t) + \frac{k}{2\sqrt{h_0}} \delta h(t) = \delta q_i(t)$$

線形の微分方程式

1  
係数がすべて数字(変数でない)  
なので、線形

13

## 第2章：ダイナミカルシステムの表現

### 2.1 ダイナミカルシステム

キーワード：ダイナミカルシステム  
システムの線形化

学習目標：入出力を動的に関係づけるダイナミカルシステムとシステムの線形化の概念を理解する。

14